

市内の小・中学校が取り組んでいる

日本一を目指した特色ある教育活動 を紹介します

問 指導課 ☎ 0183

市では、市内小・中学校の創意工夫を生かした学校づくりを推進しています。今回は、「日本一」を合言葉に活気あふれる教育活動を展開している学校の中から、北園小学校と十和田中学校の取り組みを紹介します。

北園小学校

日本一のやさしい心を目指した学校づくり

北園小学校（三上和一校長）では、友達や家族、地域の人々、さらには台湾の姉妹校の皆さんとの交流を通して「やさしい心」を持った子どもたちを育む学校づくりに取り組んでいます。

台湾の北成國民小學との姉妹校交流

姉妹校交流は今年度で18年目を迎えました。合言葉は「二北一心」。遠く離れていても熱き心は一つという意味が込められています。

北園小児童による、ダンスや楽器演奏で歓迎の心を伝えました。北成國民小學の皆さんは、子どもたちが大好きなアニメの映画曲や中国の楽器を使った曲の演奏をプレゼントしてくれました。

お別れのセレモニーで北園小児童が台湾語で歌った『感恩的心』は「ありがとう」と「また会いましょう」の思いが詰まった、すてきな歌声でした。



「太陽っ子サミット（いじめ追放サミット）」と「ありがとう郵便」

全校児童でいじめについて考えるため、パネルディスカッションを通して「いじめをしない」「いじめを見逃さない」気持ちの大切さを確かめました。

また、「ありがとう郵便」は、うれしかった思いを手紙に書いて相手に伝える活動で、2カ月間で延べ602通の手紙が届きました。毎日の生活の中で、太陽っ子の「やさしい心」は確実に育まれています。



十和田中学校

日本一健康で前向きな生徒の育成を目指して

十和田中学校（工藤正彦校長）では、平成15年度から「ハッスルタイム」による体力づくりに取り組んでいます。「ハッスルタイム」とは、全校生徒を「清掃活動」と「体力づくり」の2つの班に分け、清掃時に体育の活動をすることです。今年度のテーマは「JAST」です。

全国的にも課題となっている「少子化」や「運動の二極化」などを考慮して、運動やスポーツが苦手な生徒や、小学生の時に運動に親しむ機会が少なかった生徒が前向きな気持ちで体を動かせるように、「ハッスルタイム」のメニューを見直しながら取り組んでいます。

今年度、マラソン大会では、順位付けではなくタイム走にして自分の走力に合った目標を持たせることにしました。また、仲間との関わりや活動場所を有効活用するため「ハンドクラップ」を取り入れ、みんなで楽しんで「ハッスルタイム」に取り組んでいます。さらには、学年や性別にとらわれず、全校生徒が手をつなぎフォークダンスを踊ることで、絆を深めています。

これからも「体力づくり」と「心づくり」の両面から、自らを鍛えるたくましい生徒となるよう「ハッスルタイム」に取り組んでいきます。

※市内小・中学校の取り組みは、市ホームページにも掲載しています。

今年度からハンドクラップにも取り組んでいます！

ハッスルタイムのテーマ「JAST」

| | |
|---|-------------|
| J | 自分から・時間への意識 |
| A | あいさつ |
| S | 姿勢・清掃 |
| T | 常に・十和中愛 |

